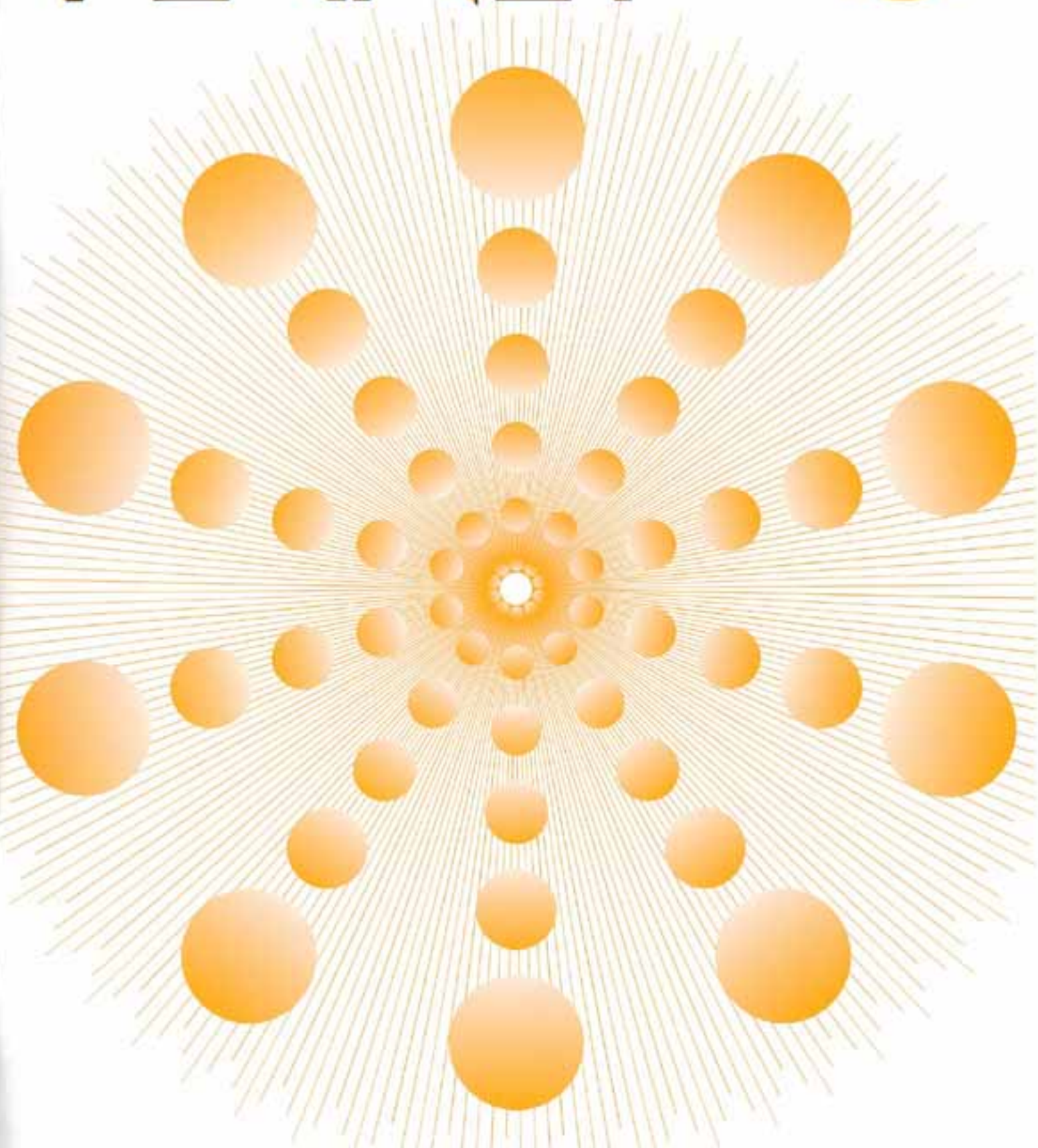


# PLANET

2007.1  
No.20

新春



富山県プラスチック工業会



朝焼けの光をそよ風に富士の蘆湖に映りて雲一つなし  
一瞬のダイヤモンド現象捉えんと晚蘭の湖畔に人はいなく  
閃光一瞬湖面に映る逆富士の嶺はもう陽は昇りぬ

幾度と進いつても見ゆと難からむダイヤモンド富士  
一瞬のダイヤモンド現象景目のあたり見し幸思ふ余身の吾の  
平成十七年一月廿一日 命身の記念として 渡辺信安

ぷらねっと

富山県プラスチック工業会

(富山技術交流センター内)  
〒930-0866 富山市兼田529番地  
TEL(076)442-0309 FAX(076)442-0310  
URL <http://www.kenpia.jp> E-mail [info@kenpia.jp](mailto:info@kenpia.jp)

ダイヤモンド現象の富士山

※ 記事の写真は、年に1~2回の現象を田貫湖より撮影  
写真提供：渡辺 信安 氏



## 年頭所感

富山県プラスチック工業会  
会長 羽場 光明

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は行政、関連諸団体を始め、会員の皆様方には格別のご指導ご支援を賜り、誠に有難うございました。何卒本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は景気回復ということで大企業中心に受注拡大や設備投資等が堅調で今年も先行き期待感が広がっています。他方、地方においては受注品の付加価値減少や関連事業の急速な海外流出など、私たちを取り巻く環境は、まだまだ厳しいものがあります。しかしながら、日本で最も中国に近い富山県の優位性を十分取り込み、ワールドワイドにおける対他競争力を高めていくことで、逆境を乗り切ることが出来るものと確信しております。

さて、当工業会の会長に就任して、早くも一年半が経過致しました。この間、活動の充実、強化と共に各加盟企業の経費負担の軽減を図る方向で活動を進めて参りました。

活動の面では、新たな人材確保支援として高校懇談会や地域社会との交流事業、広報ツールによる当業界のものづくり、ひとつ紹介を実施し、参加者の認識は高まりましたが今後とも継続して啓蒙活動を推進する必要があります。

人材育成支援も重要視しており、後期には次代経営研究会や押し成形研究会を新たに発足し、19年度以降、次代のプラ業界を背負う幹部人材や押し成形技能検定構築を通して技能人材の育成支援活動を行ってまいります。

また、プラスチック技術を基盤にして会員に広

く、産学連携研究に取り組んでもらうため、技術委員会では先進技術研修会を数次実施しつつ、富山県立大学連携センターとの懇談会を開催し、当会ニーズと大学側の先進シーズのマッチングを目指して意見交換を行っています。

工業会内部に対しては、“自助と互助”の精神をベースに、共創の心を育て、実質面における工業会としての役割のあり方について見直して参りました。即ち、各企業の工業会加盟の意義を会員各位に再認識してもらうことが、工業会活性化のためのキーワードと考えるからであります。仲間と競争する時代から、仲間と連携する時代へと舞台もグローバルに大きく様変わりしてきております。一企業だけではなし得ない難問であっても、会員のトータルパワーを結集していけば、解決の糸口は見出せるものと認識するからに他なりません。引き続き、皆様方とご相談しながら進めて参る所存です。

余談ですが今年の干支の猪は夜間行動に見られるように臆病なくらいに慎重であり、獲物探しが大変に上手です。リーダー中心の集団行動をとり、ここぞと決めれば一気加勢に走り、一網打尽に食べ尽くす。そんな本質はビジネスにも通じるところがあるかと思えます。

最後になりましたが本年が皆様方にとって、より良い年になられることを心より祈念いたしまして新年の挨拶とさせていただきます。一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。新春巻頭の挨拶とさせていただきます。

## 経済団体合同 第2回 新年互礼会開催

昨年に続いて、富山県経営者協会主催、富山県機電工業会、富山県プラスチック工業会、富山県情報産業協会、とやま技術交流クラブ共催で、第2回新年互礼会が1月4日(木) 富山電気ビルに於いて開催され、昨年を上回る300人余りが出席し、新年を祝うとともに県経済界の発展に向けて交流を深めた。

互礼会の冒頭、県経営者協会井村健輔会長から「時代の変革の中で新しい目標を持って行動したい」と挨拶、石井知事から「産業界の知恵や意見を県政施策に生かしていきたい」と祝辞があり、当工業会の羽場光明会長が、百葉の長のいわれを紹介し「企業経営には喜びも苦しみもあるが、プラスチックにちなみ、常に前向きに取り組んでいきたい」と乾杯の挨拶があった。

当工業会からも、副会長の株斉藤製作所 齊藤社長、ミユキ化成(株) 延澤社長、(株)トヨックス 中西社長、(株)リッチェル 蓮池社長、阪神化成工業(株) 高田社長、高陵プラスチック工業(株) 高橋社長、(株)城東 奥野社長、東洋化工(株)中田社長など多くの会員企業代表者が出席し、新年の挨拶など懇親を深めた。



乾杯の挨拶 羽場会長



## 「戦略的総務委員会」 に乞うご期待

富山県プラスチック工業会  
総務委員会委員長  
高野 修次

新しい年 明けましておめでとうございます。  
昨年中は、総務委員会事業にご尽力賜り厚く御礼申し上げます。  
さて、当工業会の総務委員会は、幅広い事業を展開中ではありますが、一時期総務(狭義)不要論が叫ばれた時がありました。しかし一方で、「総務は企業の頭脳であり、母屋でもある。ここがつぶれば、企業は生きてはいけない」と主張される人もありました。

「戦略的総務」に变身することが必要であると言われて久しくはなりましたが、今一度再認識することが必要な時期で、たとえば、マーケティングの立場から全体をバランスよく見るという視点がないと経営企画の調整はうまくいかない。個々の社員の人間性から社風、つまり企業文化にまで高めていくことが会社を元気にするための重要な仕事であると言われております。

総務が新しい価値を創造する部門であるとの認識のもと総務が自ら積極的に情報発信する方向に、意識改革をすることが重要と考え、事務局の発案で昨年12月から「次代経営研究会」若手次世代管理者、経営者を育成する手段としてロングランの研修講習会を自分たちで企画する研修会を立ち上げてまいりました。何卒今後の総務委員会に乞うご期待。



## 新春メッセージ

富山県プラスチック工業会  
技術委員会委員長  
松島 純治

2007年 新春のスタートに当り!!  
富山県プラスチック工業会の会員企業が相互協力に立って、各種のプラスチック分野で工夫した技術やシステム及び仕組みが工業会の結集となり、県外に発信できる事業組合になって行けばとの思いで、昨年の4月に技術委員長をお受けして9ヶ月が過ぎました。

プラスチック企業と言っても、医療・車・家電・携帯・日用品等いろんな職種や分野のプラスチック業界がある中で、会員企業さんが総じてプラスになるような技術や仕組みを展開する為に、今年度は共通の項目を見つけていく必要があるとの思いで、更なる勉強と密接な打合せを実行しながら、お互いの利点を見つけて行き“富山ブランド”展開を発信する年としたいと考えています。

特に今年度は出来ることなら「明るく、楽しく、元気よく、助け合い、ブランド化」の点を目標に掲げ、会員皆様の御協力とアドバイスを期待し、富山県プラスチック工業会が全国ネットで活動出来る事を夢に託して頑張りますので、よろしくお願い致します。

## プラスチック成形技能育成と向上

プラスチック成形技能検定 推進協議会

会長 安間 正 知 氏



富山県プラスチック工業会 会員の皆様 新年明けましてお目出とうございます。健やかに穏やかな新年を迎えられた事とお慶び申し上げます。

又、日頃はプラスチック成形技能の向上に御理解と御協力を頂きありがとうございます。

さてプラスチックの歴史は、金属やガラス・木といった材料に比べると浅く100年に満たないものです。プラスチック材料が沢山開発され成形機や成形技術が急速に発展したのは、1940～1960年頃で新しい材料という事になります。

しかし、プラスチック製品の用途は多岐にわたり、生活用品は勿論電気、自動車、包装、通信機材等あらゆる分野に広く使われています。この様に生活に密着した材料として、今日ではプラスチックなしでは生活出来ないといっても過言ではありません。

我々はこの材料を使って種々の製品を形作っていく上で、その材料の正しい性能やそれを生かす為の成形条件、印刷や塗装をする時の注意点等正しく理解し品質の良いものを世の中に送り出す責任があります。

戦後急速に発展をとげた日本でありますが特に技術立国として確かな技術、有能な技能者が生まれてまいりました。そして今後も有能な技能者を育て引き継いでいく事が大切で技能検定制度が出来上ったと理解しております。

有能な我々の先輩諸氏がその経験と英知を傾けて成形技能の試験方法を確立され、国家試験として認定される事になった訳であります。

試験は学科と実技に分かれており、2つの試験をパスした方が技能士として認められます。又その習熟度により特・1・2・3級とあり概略の知識 → 一般的知識 → 詳細な知識を有する事でその段階を区分して技

能を高めてもらう様になっております。

技能検定制度にプラスチック成形が取り入れられて約40年、すでに4万人近い方が技能士の称号を与えられ各企業を中心となってプラスチック成形業を支えておられます。最近では海外の研修生にも制度を広げ、基礎級というレベルで試験問題の作成にも当っております。

プラスチック技能検定は厚生労働省の傘下にある中央職業能力開発協会が各都道府県の職業能力開発協会にその普及指導を任せており、主に各県のプラスチック協会や組合が委託を受け、実技試験を実施しております。

プラスチック成形技能検定推進協議会は、全国レベルで行なわれるこの実技試験の判定判断が全て数値化出来るものではない為、各県の技能検定員の先生方の判断で多少のズレが発生する可能性があります。一部では〇〇県は厳しいとか△△県は合格率が良いとか、よからぬ噂が立っています。

この様な事が極力ない様にする為、任意の団体ではありませんが我々の力で公平かつ公正に判定が行われる様、各都道府県から少なくとも1名（出来れば主席検定員）出席頂き、その水準について話し合い調整していくというのがこの会の目的であります。

そしてプラスチック成形技能検定の信頼性の向上と権威を保っていきこうという事を進めております。

これからの推進協議会への御理解と御参加をお願いし、貴協会の益々の御発展をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

## わが社のターニングポイント

阪神化成工業株式会社 代表取締役社長 高田 順一



### 創業の原点「神薬の壘」

当社は私の祖父高田喜一が大正12年に創業した個人企業の高田の壘屋が出发点です。祖父は石動町から富山市に出て、神通町に工場を持ち家庭薬用の壘を製造していました。富山商業に通っていた父高田真は職人さんと呼ばれてから登校し、学校から帰ってからは壘の型押しの手伝いをしていました。

当時富山県内には同じような製壘工場がたくさんあり、富山の家庭薬の会社に納品していました。それらの製壘工場が企業整備令により昭和16年12月7日富山県壘工業にまとめられました。その後は陸軍の指定工場として資材の配給を受け、中国大陸で制圧した町や村の人たちに配られた「神薬」の壘を製造していました。中国の人たちは「神薬」を神様の薬として珍重したそうです。

大東亜戦争を遂行する為に個人企業から国策に沿った軍指定企業に変わらざるを得なかった初めてのそして大きな転機でした。

### 県外消費地に商機を求めて

戦後に元の企業に戻られた役員もありましたが、富山県壘工業としての操業は続けられ、高田喜一が社長として経営に当たっていました。やがて勃発した朝鮮動乱の特需で日本国内の製造業は大忙しでしたが、休戦後にその反動の大不況に見舞われました。富山県内の家庭薬業界も不況に陥り壘工場は操業不振となりました。その頃父高田真は営業部長として販路を県外に求めることを役員会に提案しましたが役員会の同意を得ることは出来ませんでした。父は単独大阪道修町に出向き大手製薬会社を訪問しました。対応していただいた資材部長からは品物が良ければ購入しても良いけど、富山から通ってこれれば商売にならないよと言われたようです。当時は市外電話は申し込んでも何時つながるか分からない状態でした。その言葉は断り文句であったかもしれないのですが、父は事務所

と自転車を借り、一人で営業を始めました。そのうち一緒に仕事をする仲間もでき会社を設立することになりました。大阪梅田の駅前に立った父は目の前の阪神百貨店のビルを見上げて、この地で商売を続けていく気持ちを込めて、会社を阪神容器とすることを決意いたしました。昭和30年9月のことでした。

販路を富山県外に求めた第二の転機でした。

### プラ成形工場建設への決断

大阪を拠点にした事業が軌道に乗り昭和40年には自社ビルを持つことができました。その頃から医薬品容器の材質が硝子からプラスチックに変わり始めました。お客さんはどんな環境で製品が作られ管理されているのか知りたくて工場視察を求められます。仕入先のプラスチック工場に案内するのですがお客様の求められる環境になっていない場合があり、改善要求にも応えていただけなかったことがありました。昭和45年自社のプラスチック工場を建設することを決めました。現在の国道41号線の予定地に土地を求め工場建設に着手いたしました。昭和47年9月阪神化成工業はお客様を案内して見学していただく工場として射出成形機3台で仕事を始めました。その翌年第四次中東戦争が勃発しました。OPECが原油の輸出制限をしたため原油価格が高騰し、それを起因とするオイルショックが日本を襲いました。樹脂原料も価格高騰しそれとともに前年実績の何割カットといった出荷制限が行なわれました。阪神化成工業は前年実績は半年分しかなかったのですが、医薬品の持つ社会的使命の重要性を訴えて何とか原料の確保をすることができました。今振り返ってみますともし創業の決定が遅れていたらあの混乱期に工場建設ができたのかわかりません。半年とはいえ実績を持ったメーカーとして混乱期を乗り切ることができたことが当社にとっての最大の転機ではなかったかと思えます。

創造力と先進性を、豊かな文明のために

株式会社 碓井製作所

〒930-0357 中新川郡上市町正印3の1  
TEL (076) 472-4605  
FAX (076) 472-2908

北日本ビニル株式会社

本社・工場 〒930-0862 富山市有沢162番地 TEL (076) 421-7713(代)  
FAX (076) 491-4567  
有沢工場 〒930-0862 富山市有沢15番地 TEL (076) 425-7625

KITANIHON

樹脂加工技術を核にトップレベルの  
建材メーカーを目指す。

建築用ガスケット・硬質異形成品・射出成形品

三協化成株式会社

本社・工場/高岡市福岡町下向田3-1 TEL (0766) 64-4000(代)  
物流センター/高岡市石堤700 TEL (0766) 31-3600(代)  
http://www.sankyokasei.co.jp/

自由な風土の小規模技術集団

三晶MEC株式会社

〒936-0861 滑川市中新1029-1  
TEL 475-7195(代)  
FAX 475-2924  
http://www.sanshogiken.co.jp

鉄道の鉄橋メンテナンスについてのテレビ放映があった。長年に亘り山陰線の余部鉄橋の保全補修をしていた人が、その経験を生かして四国の第3セクター鉄道企業に移り、一般的に120年と言われている鉄橋の寿命を150年に延ばすためのメンテナンス業務に精進しているというものであった。スクラップアンドビルドが常識とされていたものを、毎日傍らにいて見守ることにより、早期に変化を察知して対策することが延命のための必須要件となるのである。鉄錆には赤・黒・黄・緑があるといわれたが、酸化鉄・硫化鉄・硫酸鉄などによる色の変化であろうが、これから環境条件の変化も予想できるというものであり、毎日傍らにいてこそ変化に直ぐ気がつくのである。現場での観察重視の姿勢の大切さを物語るものである。

プラスチックの成形技術でのメンテナンスが占める役割の重要性について、そのポイントを簡単に纏めてみた。

(1) 成形機  
成形機の取り扱い  
説明書のメンテナ

ンスの項では、摺動部への潤滑油補給・電気回路やヒーターなどの電気系統の点検整備・各種計器の定期的検定・油圧回路のバック交換・作動油の冷却パイプのクリーニングや冷却水の品質管理などについて詳細に書かれていて、自己管理によるのか成形機メーカーに委託するのかわけは別にして、これらは常識的になっている。しかし問題は、異物発生に関する流路のクリーニング・メンテナンスである。射出成形機ではスクリーを抜いてのクリーニングは、押出機と異なり定着していないのはなぜかと不思議であるが、定期的にスクリーを抜いての観察によりスクリー表面の汚れ・傷・ヤデッドコーナー・摩耗・腐食などが発見されることもあり、現場重視のメンテナンスとなる。

(2) 金型 グリースアップ・ピンや摺動部の部品交換・摩耗・腐食・ばり補修などに関するメンテナンスは常識的であるが、その巧拙は金型寿命を左右する。かなり前に精密成形部品を内製している大企業の成形工場を見学する機会があった。丁度金型メンテナンス

を現場で行っているところに出合ったので、型寿命について質問したところ、同じに作った金型でも内製ではメンテナンスを徹底することにより300万ショット以上の成形実績はあるが、協力成形工場では100万ショットも成形できないとの返事が返ってきたことがある。メンテナンスとは、言うまでもなく新しい成形機・周辺機器・金型などの品質を量産成形を通じて新品同様品質に維持管理する技法であり、これなくては安定した不良ゼロ成形はできないのである。前述のような金型メンテナンス項目は常識となっているが、金型メンテナンスの盲点は、度々述べている樹脂が関与するメンテナンスの必要性に理解が不十分であることである。それは樹脂からの揮発物の析出や添加されている高分子物質の分離・析出によるベンド閉塞による成形不良の発生とキャピテイ汚染による成形品品質の低下である。これらのメンテナンスを徹底して行う習慣が

常識にならなければならない。冷却穴のスケールや錆落としを定期的に行わなければならないが、これも常識的になっていない。

マグネットつき温度計を金型表面につけて毎日観察していれば、前述の橋守りのように金型温度の変化を遅滞なく知ることができる。またホットランナ使用では、ホットチップの分解クリーニングとマニホールドのクリーニングも盲点であり、忘れやすいものである。

(3) 周辺機器 予備乾燥機・温調機・定量混合機・粉砕機・取り出しロボットの品質維持のためのメンテナンスをどうするかも大切であるが、比較的軽視されている嫌いがあると思う。予備乾燥機では巣板の目詰まりが原因での熱風量低下による不良発生のケースによく遭遇する。ホッパドライヤ内のベレットの温度を常時計測して日常管理に使用すると早期に変化を発見できるが、このような機器の改善はメンテナンス方法の確立に役に立つのである。

(提供：プラスチックニュース社)

## メンテナンスの重要性

## 第2次ブームを 迎えたベトナム投資

ベトナム経済研究所 所長 窪田 光純氏

### ■大きな信頼を得ている日本企業の投資

「中国プラスワン」としてのベトナム投資に注目が集まっている。中国一辺倒のリスクを押さえるためだが、近年はイスラムリスクを回避しようとマレーシアやインドネシアに進出した日系企業のベトナムへのシフトも増えている。日本企業のベトナム投資は、95～97年に第1次ブームを迎え多くの大企業が進出を果たした。その直後、アジア通貨危機により投資は一時的に落ち込んだものの、2000年以降再び伸長し、現在第2次ブームと言われている。日本企業のベトナム投資は2005年末の累計で600件(全体では6,030件)、総投資額63.7億米ドル(同510億米ドル)である。日本からの投資の占める割合は決して大きくないが、ベトナムでは日本企業の投資に対する評価が高い。投資認可取得後の投資実行率が高いことが大きな信頼の源泉となっている。

ベトナムの投資環境は年々整備されてきた。今年7月から施行されている共通投資法、統一企業法は従来の外国投資法より西側諸国の投資概念に沿った内容となっており、より進出しやすい環境になってきている。すでに大企業の多くが進出を済ませていることから、これからは中小部品産業の進出が増加することが予想される。

また、これまでベトナム進出した製造業の多くは輸出向け生産であったが、今後は人口8300万人を擁する国内市場向けの販売を視野に入れた投資も増えてくることだろう。また今年11月7日にベトナムのWTO加盟が正式に承認されたことから、これまで外資に開放されなかった分野(小売、通信、金融等)などへの投資も増加するものと見られる。

### ■プラスチック産業は年25～30%成長

今後、ベトナムに部品産業を呼び込むために、そのメインとなるのがプラスチック産業である。従来は原料を輸入に依存してきたが、現在は国内初の石油精製基地となるズンクワットの建設が進んでいる。3年後には国内調達が可能になる見通しで、今後加速度的に



ベトナム・ファオカイン工業団地日系工場

生産が増加する可能性がある。

ベトナムのプラスチック産業は近年25～30%という高い成長を遂げている。現在、ベトナム市場において、飲料、食品、化粧品などの容器、包装用・電線用プラスチックはすべて国産品である。また、国産品の中には国際規格の石油導管、コンピューター部品、付属品、周辺部品など高品質なものも含まれている。しかし、国際市場ではまだ価格面において競争力がないのが現状だ。現在、ベトナムのプラスチック製品の年産は160万トン(17億米ドル規模)だが、年産400万トンまで増産できると見られている。

ベトナムにおける金型産業はまだ発展途上にある。ただ、ベトナム人は本来手先が器用で優秀であり、アジア大学ロボットコンテストでホーチミン工科大学が4年間に2度優勝したことでも知られる。ベトナムにおける金型産業は将来的に十分に潜在性があると見る専門家も多い。

### ■ストライキの背景と帰属意識の重要性

昨年末から発生しているストライキは100件以上に上っているが、そのほとんどは香港、韓国、台湾系企業などで、賃金未払いや悪質な労働環境などが原因である。日系企業の場合は近隣企業の影響を被る形で10数件のストライキが起こったが、日系企業の多くは労働協約をよく守り良好な労使関係を築いていることから、ストライキに結びつくような直接的なケースは少ない。ただ、今後、さらに多くの企業がベトナムに進出することを考えると、労働者のジョブホッピングが増加することが予想される。生産性向上と共に労務管理をどうするか、またいかに労働者に帰属意識を持たせて労働の意義・価値を教えることができるかが、企業にとって重要となる。

WTO加盟や11月にハノイで開催されたアジア太平洋経済協力会議(APEC)を通じ、ベトナムは「国際社会の中のベトナム」を強くアピールした。この流れを投資の追い風として飛躍したいところだ。

—Plastic 豊かな未来をひらく—

**太平株式会社**

TAIHEI Co., Ltd

代表取締役社長 石崎 直樹

〒939-1691 富山県南砺市福光737

本社・本社工場 TEL (0763) 52-1136

高宮工場 TEL (0763) 52-1216



安全と清潔を売る包装の

**株式会社 大樹**

代表取締役 稲浪 樹



ISO9001:2000  
認証取得

本社 〒939-0418 富山県射水市布目沢201  
TEL (0766) 53-1331 (代表) FAX (0766) 53-1330  
松戸支店 〒270-2214 千葉県松戸市松飛台255  
TEL (047) 384-7791 (代表) FAX (047) 384-7796  
URL http://daiki.org

モノづくりは、人づくり。

大きな夢を育てたい。

**戸出化成株式会社**

本社・工場 高岡市戸出西部金屋414

〒939-1114 TEL (0766) 63-5152 (代表)

FAX (0766) 63-5199

より高度の技術力を未来社会のために…

電子機器精密部品金型製作及びプレス加工・一体成形加工品製造・自動組立

ISO9001・14001 認証取得

**株式会社 富山技研**

富山市八尾町新田391 TEL (076) 455-0585(代)

URL: http://www.k-tg.co.jp/

## 富山県立大学との第一回産学連携懇談会 開催

プラスチック成形加工における産学連携研究の促進を趣旨として懇談会開催を富山県立大学に要請し、12月22日、県立大学にて開催した。

当工業会から齊藤副会長、松島技術委員長他8名が、県立大学からは松岡教授他4名が出席した。工業会としてのこれまでの取り組み経緯説明のあと、大学側よりシーズ発表として機械システム工学科の川越教授、真田講師、中川講師、松岡教授よりプラ成形加工、高分子材料、流動解析分野の研究内容が発表され、活発な質疑応答があった。

併せて、定村連携コーディネーターより、連携活動紹介があった。

大学側より、プラスチック関連の産学連携研究はこれまで少なかったが今後はプラ業界との連携を深めながら研究活動を増やしていきたいとの意気込みを受けて、工業会としても今後、このような懇談会を継続しながら会員企業に広く啓蒙し、技術開発の充実に役立てていきたいとした。



— 齊藤副会長挨拶 —



— 松岡教授シーズ発表 —

### <技術委員会主催：産学連携研究に向けての勉強会は次の通り>

- |     |           |                   |   |
|-----|-----------|-------------------|---|
| 第1回 | 平成18年6月5日 | 金沢工業大学工学部教授 新保 實氏 | 演題「超臨界流体を用いたプラスチック成形加工技術の現状」                |
| 第2回 | 7月13日     | 金沢工業大学工学部教授 山部 昌氏 | 演題「射出成形シミュレーションを用いた設計・試作の効率化」               |
| 第3回 | 8月31日     | 金沢工業大学工学部教授 小川俊夫氏 | 演題「植物系樹脂（生分解樹脂）の現状と可能性」                     |
| 第4回 | 9月29日     | ㈱ブリテック常務取締役 海野 優氏 | 演題「包装容器プラスチックリサイクル業界の動向について」<br>見学会：㈱エコマインド |

## 次代経営研究会の設立

次代を背負う企業人材の学びの場として、当工業会主催にて12月9日(土)から22名の研究会メンバーでスタートした。

研究会では平成19年度までは経営者講演、工場管理、経営手法等の講座や工場視察会を順次、実施していく予定です。

第一回は講演として、羽場工業会会長から「プラスチック成形業生き残り」と題して、これからは環境保全、資源保全というソーシャルコストを支える必要性、有機プラの用途開発、リサイクル技術を追うことができる企業であること、次世代経営者は今よりもっと厳しい環境になるという自覚が必要で体格、体力では負けるので自社でしかできないものを持ってと研究生に激励された。

続いて中小企業基盤整備機構・中小企業診断士・布目大剛氏より工場管理講座が行われた。

生産管理講座ではレイアウトの改善、在庫の考え方、物流コストの改善、設備保全は予防保全であるべき、予防保全、IE・新IEの違い、生産管理としての金型保管、材料保管が儲けの基礎などの講義があった。

### 今後の予定として

- 1月13日(土) 「プラ関連業種経営講演」と「原価管理手法講座」
- 2月10日(土) 「異業種経営講演」と「品質管理手法講座」
- 4月度 「中小企業IT化経営講演」と「経営分析手法講座」
- 5月度 「プラ関連業種経営講演」と「経営改革・改善講座」
- 6月度 「企業視察会と意見交換会」
- 10月度 「ものづくり人材育成講座」と「月次決算講座」
- 11月度 「異業種経営講演」と「経営戦略講座」
- 12月度 「企業視察会と意見交換会」などが予定されている。

### 同研究会役員は次の通りです。

- 代表世話人 畑 重信さん (高陵プラスチック工業㈱)
- 副代表世話人 井上裕康さん (㈱確井製作所)
- 世話人 岩城栄治さん (㈱日本成工)
- 〃 山内秀明さん (㈱大樹)
- 〃 高木 保さん (三光合成㈱)
- 〃 花田耕誌さん (小林製薬ブラックス㈱)
- 〃 堀田裕二さん (㈱リッチェル)



— 布目先生の生産管理手法講座 —



— 羽場会長の講演に聞き入る研究生 —

## 事業報告

### 新入社員レベルアップ研修会

と き：平成18年4月5日～5月12日

ところ：ポリテックセンター富山

・初心者向け射出成形・金型・電気制御を参加企業14社44名が研修しました。



### 雇用確保推進DVD制作・配布

と き：平成18年4月5日

配布先：県内高校・大学・専門学校・職安・会員企業  
・県内プラスチック産業紹介と各種成形ものづくり過程、業界の未来志向への取り組み、若手社員の声等にて収録され、今後、一層厳しくなる若手人材の採用確保の支援ツールとして県内学校等にもものづくり教育への活用を要請、配布した。

### 射出成形技能検定予備講習会（学科）

と き：平成18年6月24日

ところ：ポリテックセンター富山

・前年より多い88名が出席して講師の林先生より学科試験問題の実践的講義がありました。



### 射出成形技能検定予備講習会（実技）

と き：平成18年5月22日～6月29日

ところ：ポリテックセンター富山

・前年より20人以上も多い118名が受講されました。人材育成の高まりもあり、年々受講者が増えています。

### 会報編集委員会&総務委員会

と き：平成18年7月4日

ところ：富山技術交流センター

・編集委員会では18年度会報の編集方針、記事内容、部数・表紙デザイン等について打合せした。  
・総務委員会では経営セミナーを8月4日1泊開催にて開催し、セミナー内容等について打合せした。

### 技術委員会

と き：平成18年7月13日

ところ：富山技術交流センター

齊藤（技術担当）副会長、松島技術委員長長の挨拶に続き、  
・技術講演として金沢工大 山部教授より「射出成形シュミレーションを用いた金型設計・試作の効率化」  
・経産省中部経産局 山森係長より「ものづくり基盤技術の高度化支援概要説明」を聴講、質疑のあと、技術委員会としての今後の産学官連携検討をおこない、次回は植物性樹脂の可能性について研究者講演を開催予定。

### 経営セミナー

と き：平成18年8月3日～4日

ところ：呉羽ハイツ

延澤（総務担当）副会長、高野総務委員長よりの挨拶に続き、下記の講演と懇親会が開催された。  
・経営講演会 講師 株式会社セイコー社長 羽場光明氏 演題「これからの製造業と経営に求められるもの」  
・労務厚生説明会 県商工労働部課長補佐 愛場尋幸氏 テーマ「仕事と子育て両立支援について」  
・視察報告 株式会社セイコー技術開発部主任 手嶋成市氏 演題「シカゴ世界プラスチック展を視察して」

## 優良従業員表彰式

富山県プラスチック工業会優良従業員表彰が5月10日、富山第一ホテルで開催され、会員企業社員22名が表彰されました。

羽場会長より「ご承知のように原油高騰で業界は圧迫され、人件費高も含めて製造コストは高くついているが社員みなで知恵を出し合って経営・技術革新を図り、総合力を発揮していけば、日本の工業力は困難を乗り越えてゆくことが出来ます。

皆さんには自分自身のためにこれからも技を磨いて会社・業界の発展とともに社会貢献のためにがんばってください」との激励の言葉があった。

来賓を代表して富山県新世紀産業機構 宮本孝専務理事より祝辞があり、受表彰者へのお祝いと今後の活躍と共にプラスチック業界が県産業界に果たす役割と発展を期待する言葉があった。

表彰式終了後、総務委員会事業として健康講演会が開催され、延澤副会長から開会挨拶の後、受表彰者も出席して前田昭治富山健康増進センター所長による「生活習慣病とのたたかい」の演題で講演が行われ、生活習慣病の増大傾向と症状の説明、最近、問題化している内臓脂肪型の肥満による高血圧や高血糖で脳卒中や心筋梗塞になる危険性について、説明があり、血圧、血糖、中性脂肪で2項目が基準値を超える場合は要注意として指摘され、運動不足や栄養過多への注意があった。

受表彰者は右の通りです。



### 優良従業員表彰受表彰者

	氏名	企業名
1	井口 人志	(株)リッチェル
2	大野 義則	(株)日本成工
3	金谷 秋夫	(株)富山技研
4	悟道 律子	小林製薬ブラックス(株)
5	小松 滋	阪神化成工業(株)
6	斎藤 孝政	三光合成(株)
7	高田 実	トナミ精工(株)
8	高原 英哲	斎藤製作所(株)
9	高見 賢喜	滑川プラスチック工業(株)
10	多田 勝	(株)リッチェル
11	中島 久美子	五栄化学工業(株)
12	中坪 雄二	(株)トヨックス
13	西川 邦一	三協化成(株)
14	幅田 由美子	(株)富山技研
15	廣本 敏博	(株)タカギセイコー
16	牧野 武	阪神化成工業(株)
17	松崎 実	三光合成(株)
18	松澤 和朗	三協化成(株)
19	水口 信良	(株)トヨックス
20	山内 秀明	(株)大 樹
21	湯浅 治幸	太 平(株)
22	横山 和人	(株)タカギセイコー

## 懇親ボウリング大会 結果

平成18年7月2日(日) クアトロブーム小杉

(参加企業 16社 参加人員 125名)

### 団体の部 (1チーム5名 計10ゲーム)

	チーム名	企業名
優勝	(株)タカギセイコー 氷見A	(株)タカギセイコー 氷見事業所
準優勝	シロウマレディース	シロウマサイエンス(株)
3位	(株)タカギセイコー 氷見B	(株)タカギセイコー 氷見事業所
4位	紙 様	(株)タカギセイコー 新湊工場
5位	三光合成(株) A	三光合成(株)

### 個人の部 (2ゲーム)

	チーム名	企業名
優勝	鏡 塚 良 一	(株)タカギセイコー 新湊工場
準優勝	能 登 美紀子	シロウマサイエンス(株)
3位	高 辻 信 一	(株)タカギセイコー 氷見事業所
4位	紙 屋 安 久	(株)タカギセイコー 新湊工場
5位	大 口 芳 信	(株)タカギセイコー 氷見事業所



新役員・新会員紹介

◆新常務理事

三協化成(株) 代表取締役社長 高畑 勉  
三晶 MEC(株) 代表取締役専務 今家 英明



高畑 勉



今家 英明



津幡 興二

◆新理事

イセ(株) 代表取締役社長 津幡 興二  
小林製薬ブラックス(株) 代表取締役社長 永野 淳  
(株)日本成工 代表取締役社長 米田 忠磨  
(株)YPK 代表取締役社長 三ヶ本修爾



永野 淳



米田 忠磨



三ヶ本修爾

◆新入会企業

富山大扇工業(株) 代表取締役社長 合田 昭男  
所在地 930-0401 中新川郡上市町広野新269

連携と協調

富山県主催「中小企業との対話」集会参加

平成18年6月7日(水)富山県民会館で開催され、県より藤木商工部長他、当会より齋藤副会長、延澤副会長他3名が出席し、全体で80名あまりが参加して藤木部長より、産業振興策、新産業の創出などについて説明があり、各業種経営者より要望があった。

当会の齋藤副会長が代表して発言があり、要旨は下記の通り。

「富山県におけるプラスチック産業は昭和初期に高岡市出身の高峰譲吉博士が日本にペークライトの基本

特許を持ち込み、富山県においても昭和10年頃よりペークライト漆器等の製造、戦後は紡績部品樹脂化、富山市の富川市長が有望産業として支援した経緯もあり、今日では全国的にも有数な位置付けにあるが富山大学や県立大学では高分子を学ぶ講座がないので産学連携での技術開発研究に取り組めないのが現状であり、県が設置にむけて働きかけて欲しい」と要請した。

県から、産学官連携は重要なので官民上げて招請も含めて対応していきたいとの回答があった。



《平成18年4月～6月会員景況感調査報告(全国版)》

総回答数248社

1. 数字はすべて前期比で、単純平均%で表示しております
2. 傾向がわかるように、値が50%以上の場合は網掛けを行っております

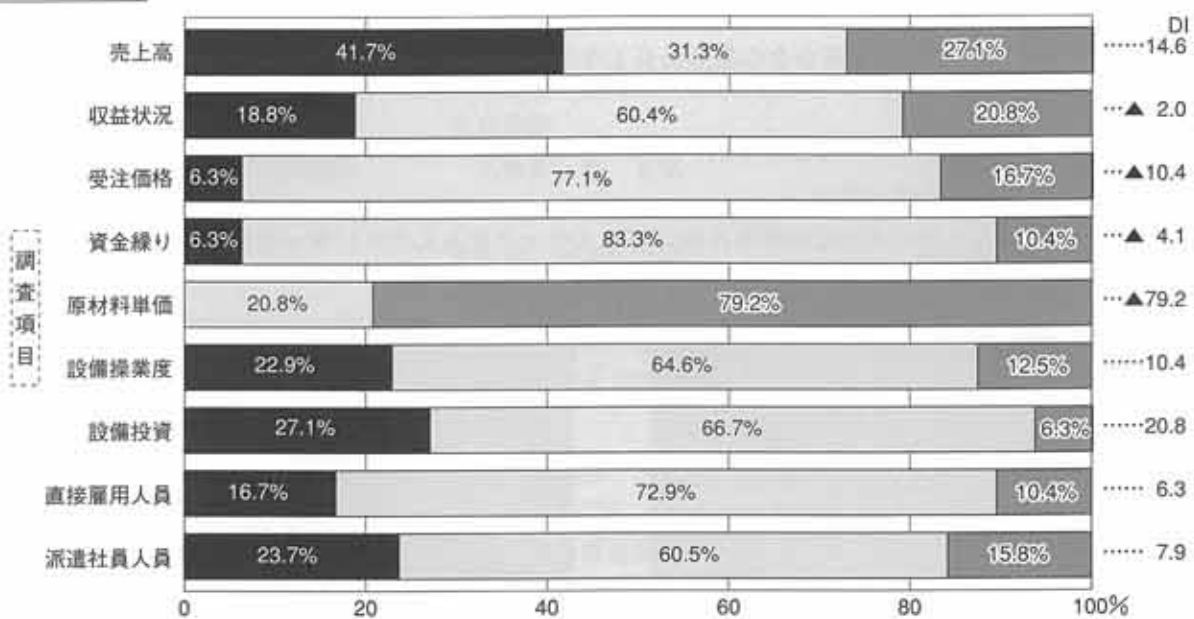
		全 体	団 体 別				製 品 別						昨年 同期比
			中部 日本	東 日本	神 奈 川 県	西 日 本	日 用 品 ・ 雑 貨 類	容 器 包 装 ・ キ ャ ッ プ	電 気 ・ 電 子 ・ 通 信 部 品	自 動 車	住 宅 関 連	そ の 他	
① 生産高 売上高	増加	27.8	17.6	27.1	27.6	33.0	34.4	25.0	25.0	30.2	20.0	29.4	31.4
	横這	49.6	62.7	47.5	55.2	43.1	43.8	63.9	54.4	47.6	53.3	32.4	45.1
	減少	22.6	19.6	25.4	17.2	23.9	21.9	11.1	20.6	22.2	26.7	38.2	23.5
② 製品単価	上昇	6.0	3.9	5.1	0.0	9.2	9.4	5.6	1.5	7.9	6.7	8.8	5.9
	不変	71.8	60.8	69.5	72.4	78.0	84.4	83.3	69.1	54.0	86.7	79.4	51.0
	下降	22.2	35.3	25.4	27.6	12.8	6.3	11.1	29.4	38.1	6.7	11.8	43.1
③ 採 算	好転	9.3	3.9	6.8	3.4	14.7	6.3	5.6	11.8	11.1	6.7	8.8	5.9
	横這	54.0	54.9	55.9	62.1	50.5	43.8	50.0	63.2	58.7	40.0	47.1	54.9
	悪化	36.7	41.2	37.3	34.5	34.9	50.0	44.4	25.0	30.2	53.3	44.1	39.2
④ 所定外 労働時間	増加	14.9	13.7	16.9	6.9	16.5	12.5	11.1	16.2	19.0	13.3	11.8	15.7
	横這	68.5	76.5	67.8	58.6	67.9	65.6	77.8	70.6	58.7	73.3	73.5	70.6
	減少	16.5	9.8	15.3	34.5	15.6	21.9	11.1	13.2	22.2	13.3	14.7	13.7
⑤ 製品在庫	増加	15.3	9.8	8.5	17.2	21.1	15.6	8.3	20.6	11.1	40.0	8.8	7.8
	横這	69.0	76.5	78.0	58.6	63.3	71.9	86.1	63.2	69.8	26.7	76.5	70.6
	減少	15.7	13.7	13.6	24.1	15.6	12.5	5.6	16.2	19.0	33.3	14.7	21.6
⑥ 材 料 調達単価	上昇	73.4	86.3	69.5	65.5	71.6	84.4	86.1	66.2	68.3	86.7	67.6	94.1
	横這	26.2	13.7	30.5	31.0	28.4	15.6	13.9	33.8	31.7	13.3	29.4	5.9
	下落	0.4	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0
⑦ 総合判断	好転	10.9	9.8	11.9	0.0	13.8	9.4	13.9	8.8	11.1	6.7	14.7	7.8
	横這	55.2	54.9	59.3	69.0	49.5	46.9	36.1	67.6	63.5	53.3	44.1	49.0
	悪化	33.9	35.3	28.8	31.0	36.7	43.8	50.0	23.5	25.4	40.0	41.2	43.1
⑧ 来期の 見通し	好転	15.7	11.8	22.0	6.9	16.5	9.4	11.1	22.1	19.0	6.7	11.8	5.9
	横這	62.1	66.7	59.3	72.4	58.7	59.4	61.1	64.7	65.1	60.0	55.9	68.6
	悪化	22.2	21.6	18.6	20.7	24.8	31.3	27.8	13.2	15.9	33.3	32.4	25.5

全日本プラスチック製品工業連合会  
《平成18年4月～6月会員企業景況感調査報告(全国版)》より引用

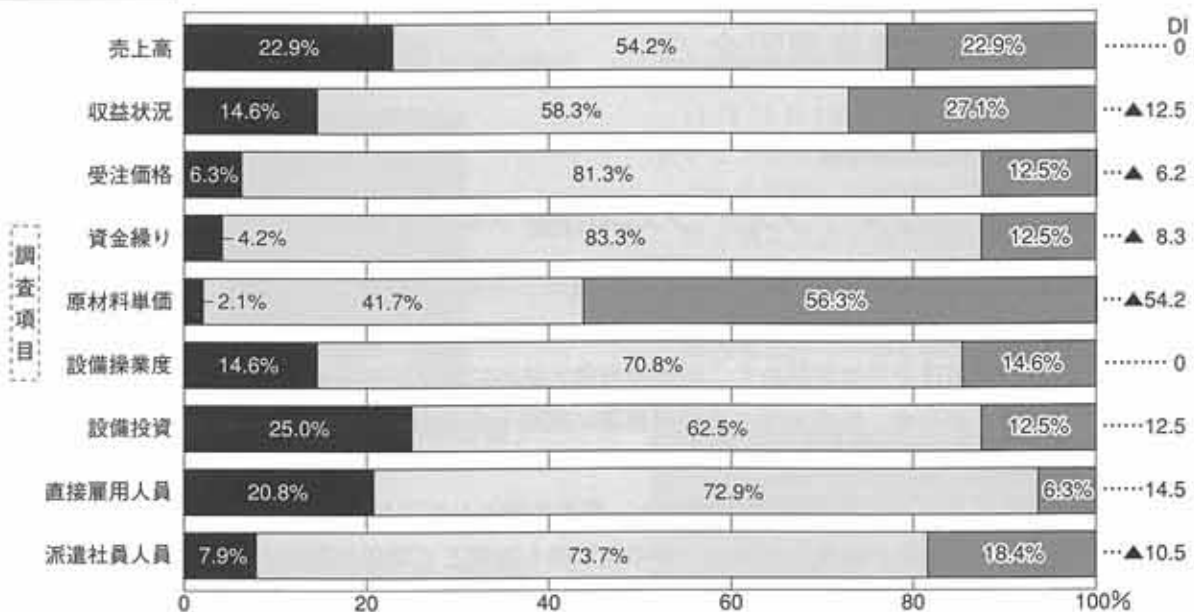
最近の実績 (平成18年4月～9月)

調査：当会会員企業66社中48社回答

■ 増加・好転・上昇 □ 変わらず ▨ 減少・悪化・低下



今後の見込み (平成18年10月～19年3月)



経営上の問題点

- |             |       |             |       |             |       |
|-------------|-------|-------------|-------|-------------|-------|
| 1. 受注価格の低下  | 66.7% | 4. 派遣社員の増加  | 31.3% | 7. 収益減      | 20.8% |
| 2. 資金繰りへの悩み | 43.8% | 5. 設備操業度が低下 | 27.1% | 8. 原材料upの転嫁 | 12.5% |
| 3. 設備投資の遅れ  | 31.3% | 6. 売上高が伸びない | 25.0% | 9. 直接雇用人員確保 | 4.2%  |

共創

「一つしかない命の重み」

2006年の「今年の漢字」に「命」が決まりました。いじめ自殺や虐待、飲酒運転事故などの痛ましい事件が相次ぎ、命の大切さを痛感した一年でありました。今年はどのような年になるのでしょうか？

最近、社会全体では、熱心に生き、一生懸命自分たちの夢を作り上げようとするまじめさや勤勉さが少なくなり、いい加減な、どこか投げやりな、手を抜いた生き方でもいいといった風潮があります。そして人の命に重さはなく、軽々しく人を傷つけたり、殺したりすることが平気で行われるようになってきています。わずかなお金のために人を殺したり、素直に親の言うことを聞かないからと食事も与えないで自分の子供を殺してしまったり、自分たちが遊びたいから子供を炎天下の車の中に放置したり、一人ひとりの命が軽々しく扱われているような事件が多く見られます。

また、人間関係においても、人と真剣に向き合うことが少なく、表面的な、薄っぺらな人間関係になってきています。人の苦しみ、悲しみに熱心に耳を傾け、人の苦悩を理解しようとするような人間関係は少なくなってきています。特に人の話を聞かない人たちが増えているように思われます。自分のことだけで精一杯で、他の人のことなど考える余裕がなくなっているのでしょうか。親子関係も、友達関係も、職場の人間関係も薄っぺらなものになってきているように思えます。

一方、家庭では、核家族が進み、家庭が本来持っていた人間関係の癒しの役割が薄れ、団らんがなくなってきています。同じ家に住みながら、それぞれが異なる食事を異なる時間にとり、異なる価値観で、異なることを楽しむように変化してきています。家庭のために、家族のために自分だけが犠牲を強いられるのは嫌だと言わばかりに、家庭の中でも自己中心的な考えが横行しているのが、現代の家庭の特徴でもあるようです。貧しさで家庭が崩壊するのではなく、豊かさの中の人間関係がもとで、家庭が崩壊し始めています。子供に過剰に干渉したり放任したりするのではなく、優しい目で見守り、真剣に子供たちの苦しみに耳を傾け、社会の子供として親が真剣に責任をもって、子供の個性を尊重する育て方をすることが、今家庭に求められているのではないのでしょうか。

「命」の大切さを痛感した2006年でした。果たして今年2007年は？

〈編集委員会〉  
 総務委員長 高野 修次 (株)リッチェル  
 副委員長 門前 昌志 (阪神化成工業株)  
 喜多 進 (株)大樹  
 松本 哲保 (株)碓井製作所  
 西村 源信 (三光合成株)

総務副委員長 松本 哲保

春隣

日暦をめぐくに「1」は初々し  
 その初々しさを持ちて過ごさむ  
 竹安 正太郎

年賀状分けあいながら妻と見る  
 年に一度の息災の縁  
 荘厳にはなやかにあり月下美人は  
 全室こめて一夜を満たす

しずかなる西の京なる薬師寺の  
 丹塗の伽藍に秋陽かたむく

コーヒーとケーキ置く卓灯をほそめ  
 Xマスイブの名をお借りして

「春隣」は、会員企業の皆様の趣味の文芸コーナーです。  
 投稿をお待ちしております。

理想のモノづくりへ  
 そのさらなる進化へ向けて

NISSEI 日精樹脂工業株式会社

●北陸営業所 / 〒939-8211 富山市二口町1-10-5  
 TEL (076) 425-2638 FAX (076) 425-2639  
 ●本社・工場 / 〒389-0693 長野県埴科郡坂城町南条2110  
 http://www.nisseijushi.co.jp/

北酸株式会社

取締役社長 山口 昌広

本社 〒930-0029 富山市本町11番5号  
 TEL (076) 441-2461 FAX (076) 441-2358

(広告は、企業名のアイウエオ順に掲載しています)